

## 広陵町 男女共同参画審議会 議事録要旨

開催日：令和4年6月25日(土)

午前10時～正午

場所：広陵町役場 3階大会議室

出席者

審議会委員（全15人・うち2人欠席）

町長・副町長・教育長

事務局（地域振興部・協働のまちづくり推進課）4人

午前10時開会

### 1 開会

### 2 委嘱状交付

### 3 町長挨拶

次第に沿い、山村・広陵町長から挨拶。

(町長)

令和4年度は広陵町男女共同参画行動計画の見直しを中心に議論をしていただきたい。奈良県ではこれまで女性の首長が一人も誕生していないが、まずは広陵町で女性町長が誕生するような、男性も女性も活躍できる素地を育んでいきたいと考えている。広陵町の持続可能な住みよいまちづくり、人づくりのため、皆様にご協力をいただきたい。

### 4 会長・副会長選出

事務局の提案により会長は松岡悦子氏（前回の計画策定時の会長）、副会長は新谷眞貴子氏（令和元年度から副会長）に決定。

### 5 諮問

### 6 委員の自己紹介

(会長あいさつ)

前回の計画策定時は現役の教員をしていた。まず、男女共同参画がなぜ必要で何のために

するのかということ。また、いろんな立場の方が集まっているので、異なる意見を出していただきたい。皆さん同じ意見というのではなく、いろんな立場から違う意見を出していただいて、視野をひろげていただきたい。

(副会長あいさつ)

広陵町で生まれ育ち、子育てや仕事も広陵でしてきた。広陵で育ててもらった思いがある。いろんな地域の方にお世話になってきた。できることがあれば少しでも恩がえしをしたいという思いで、乳幼児の子育てを応援するNPOを立ち上げ、6年ほど経った。

地域で活動して初めて地域のいろんな方とつながって、力を貸してもらっていたことがわかった。

小さいときから、父親や母親の生きづらさなどいろんな思いを見てきた。「誰もが多様な選択肢から自らが自らの道を選択でき活躍できる社会」にできたら、もっともっと素敵な住みやすい町になると思う。

皆さんの力や知恵を貸していただき、素敵なまちづくりができる審議会になればいいと思う。

○立ち上げ時から公募委員として参加している。普段は土建や測量などの仕事をしており、男女共同参画に関わったことはなかったのだが、男女共同参画審議会の過去資料を見返していると、審議委員のほぼ半数が変わられている。その中で、この話だけではないが、委員の誰かの「皆が理解しなくてはならない話でも、時間がかかることは当然なので、目に見える事を何回も繰り返してやる」という言葉が印象に残っている。委員に再任したので、そういったことも考えながら、協力していきたい。

○立ち上げ時からメンバーになっている。うちは子どもが多いので、そういう意味でも町にお世話になっている。恩返しをしていच्छゃいと女房に言われ、初めは軽い気持ちで参加した。子どもが9人おり、女8人男1人で、家では男が小さくなって生活している。子育ても町から応援していただいているが、互いが助け合っていないと子育てはできないので、そういう意識で子育てをしている。お役に立てればという思いで参加している。

○当初から参加している1人ではあるが、未だにここに居て良いのかという意識ながら、勉強している。

○奈良県立大学でジェンダーについて勉強しており、特にフェミニズムについて興味を持っている。ゼミの先生からの紹介で今回参加させていただいた。まだまだ勉強中ではあるが、学生世代の視点を伝えられたらとおもっている。

審議会の参加は初めてだが、自分自身も勉強しながら参加できたらと思う。

○こども園の副園長をしている。こども園の現状としては、198人の子どもが通っており、165名が2号3号認定で、33名が1号認定である。働いているお母さんが増えてきており、1号認定の子どもでも、預かりとって、働いているお母さんの子どもを預かっているという現状である。開園当初より働いているお母さんが増えているので、これからも働くお母さんやその子どもが増えていくと思う。こういった現状を伝えながら、協力できたらと思う。

○一年生と三年生の子どもがいるが、その立場からの意見で、広陵町がもっとよくなればと思う。今日はいろいろ勉強させていただきたい。

○広陵町教育委員会の教育総務課で指導主事をしている。まさに男は外へ、女は内へという家庭に生まれ育ったが、社会人として入った教員の世界では性別関係に関係なく、それぞれの役割をしっかりと務めながら教育をしていくという場所であった。今や妻に頭が上がらない40数年を過ごしてきている。力不足だが、広陵町のためがんばる所存。

○特別養護老人ホーム大和園の園長をしている。こういった会議に参加するのは今年が初めて。高齢者のお世話をするのが職域である。いろんな年齢、いろんな職業の方がいる中で、どういう風と同じ方向を向いて男女共同参画について考えていけるのか、勉強をしていきたい。色々教えていただきながら成長していきたい。

○障がい者の事業所を13年前立ち上げ、現在19名の利用者がある。職員は16名ほど。障がい者の保護者の方は悩まれている方が多いが、やりとりを行う軸はお母さんで、お父さんとのやりとりもあるけど少ない。お母さんの判断で子育てしている部分が多くある。

自分自身は5人の子どもを持っている。男女共同参画の審議会に入りながら、時代と共に自分自身の子育てのステージも変わってきた。この世の中も変わってきていると感じている。

障がい者の事業所を立ち上げたのは、福祉に興味があったこともあるが、もし離婚したときにも生きていけるように、何かあった時に弱い立場になりたくないという気持ちもあった。ジェンダーの勉強もしてきたが、今の社会は、男性の方も女性に寄り添っているし女の方も居心地のよい場所を抱えているような、変化があるように思う。

このように、社会は変わってきているが、一方で家族関係の中での立ち位置はかわっていない部分があるように感じながら見ている。自分自身力不足はあるが、よろしく願いたい。

○人権擁護委員をして9年になる。広陵町を差別のない町にするべく頑張っている。よろしく願いたい。

○自治会長をしている。前職で消防をしており、自分が所属に入った時は500名の職員がいたが、全員男性であった。

男女共同参画とはかけ離れた男尊女卑の家庭で生まれ育った。現状自分の家庭でもまったくその通りで、子3人孫8人いるが、自分がいつも威張っている。

そう言いつつ、前職の消防の世界でも男女共同参画が進んできて女性が増え、9年前には職員500名中1割が女性となった。そういう風に世間では、男女共同参画が進んでいると感じている。

○多彩な方が多彩な立場からご意見いただくと力強く感じている。忌憚なきご意見をお願いしたい。

## 7 現状報告及び今後のスケジュール等について（事務局説明）

### ■男女共同参画を取り巻く現状について（資料4・1～15ページ）・国や県との比較

表紙・1ページ：表紙には計画策定（2018年の3月）以降の動きを記載。

2019年に広陵町が内閣府からSDGs未来都市に認定された。SDGsの目標の5番については「ジェンダー平等を実現しよう」という項目があるが、「持続可能なまちづくり」というのは何なのかを男女共同参画を通じて考えてみるのも良いのではないか。

2021年には広陵町自治基本条例を制定。みんな、地域・子ども・高齢者のために、どのように住みよい社会・まちづくりをしていこうかということ条で定め、各団体にもっと活動していただくという思いから策定した。

今年4月には第5次広陵町総合計画を策定。総合計画というのは自治体、市町村の最上位の計画で、長期的にどのような政策や授業を行えば広陵町が良くなるかということを示したものである。自治基本条例は思いや理念を表し、総合計画は、それを実行していく計画で、この両輪で広陵町のまちづくりを進めていく。

## 2～3ページ：「骨太の方針」のジェンダーギャップ指数（官邸のHP引用）

昨年11月29日に女性版骨太の方針が提案され、今年6月3日に「女性活躍男女共同参画の重点方針2022」が策定された。

- ① 女性の経済的な自立
- ② 女性が尊厳と誇りを持って生きられる社会
- ③ 男性の家庭地域社会における活躍
- ④ 女性の登用目標の達成

の4つが目標として定められている。

広陵町の計画には、女性活躍、DV防止の施策も盛り込んでいる。

ジェンダーギャップ指数とは各国における男女格差を測る指数で、日本はこのギャップが大きく156カ国中120位となっている。政治分野では国会議員の女性割合が9.9%で、奈良県でもいまだに女性の首長はいない。経済分野でも、企業では専務や社長などの（女性の）割合も低く、平均所得も男性の6割程度という点が順位を下げている要因となっている。

## 4ページ：「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という意識について（国、県、広陵町の比較）

国では、男性は「夫は外で働き妻は家庭を守るべき」という考え方が段々となくなってきた。

奈良県は5年であまり変化はないという状態。女性の方はかなり（そういった）意識がなくなってきたが、男性はいまだに「固定別役割分担意識」というのが強いと言われている。

## 5ページ：女性の年齢階級別労働力率の推移

1980年、2000年、2020年の女性の労働力率の推移を記載。「M字カーブ」が昔は顕著にあったが、2020年にはほとんどなくなってきた状態。いわゆる「子育て世代」である30代の人たちも75%が働いているという状態である。

#### 6 ページ：女性の働き方の内訳

子育て世代、30代を境に非正規で働いている女性が増えている。子育てをしながら、あるいは（育児を）一旦終了した後は非正規の方がかなり多い。そのため経済的に自立するのはかなり難しいのが現状である。

#### 7 ページ：男女別に見た家事、育児、介護時間、働く仕事時間の推移

仕事をする女性は増加しているが、男性が家事・育児（に参加している）時間はあまり増えていないのが現状。

（これは資料にはない箇所だが）、第1子の妊娠・出産を機に仕事を辞めた人に理由を聞いたところ、半数以上の女性が仕事と子育ての両立はやはり難しいと答えている。女性が社会進出をするためには、男性が家事・育児を分担する時間を増やしていく必要があるのではないか。

#### 8 ページ：家庭内暴力についての割合（行動計画にDV防止法の施策も盛り込まれるため）

このグラフは犯罪の検挙件数だが、検挙は「明るみに出た件数」なので実際はもっと多く起きているのではないかと。女性の配偶者の方が被害に遭う確率が高くなっているため、女性への暴力もなくしていく必要がある。

#### 9 ページ：ひとり親世帯の貧困率（OECD加盟35カ国の比較）

日本は35カ国中34位。子どもがいて大人が一人の「ひとり親世帯」については、日本では約半数が貧困の世帯である。そのためになかなか自立ができない。DVや家庭内暴力を受けているかもしれないが、経済的に自立できず離婚できない状況がある。

### ■広陵町の取り組みについて（10ページ～）

#### 11 ページ：計画策定以降の男女共同参画の推進状況について（現在も継続しているもの）

##### ・DV相談窓口の開設

住民にとって相談しやすい体制を構築、相談内容を把握し、県などの窓口へ案内する

##### ・パープルリボンの配布

女性に対する暴力をなくす運動を広く周知するため、公共施設等の窓口で配布

・出前講座の実施

2019年から小学生を対象に出前講座を実施。専門団体に委託し、デートDVやLGBTQ・性的マイノリティの方などについての意識啓発を行っている。

(令和3年度はコロナ禍のため先生に動画の視聴をしてもらいアンケートを取ったので、今後の施策に活用したい)

12～13ページ：「女性活躍推進交付金」を活用して行った事業

・ワークライフバランスに関するアドバイザー派遣事業

「働きやすい職場作りの冊子」を作成。町内の事業者を対象にワークライフバランス等の働き方に対する指導を行い、専門のアドバイザーを派遣。令和元年度では5社に※「一般事業主行動計画」を策定してもらった。

(※女性の従業員や管理職の割合、男性の育児休暇取得率の現状を数値で把握し、それらを踏まえて企業ごとに働き方を見直し、改善や発展に向けて策定した計画)

・働くママセミナー

子育て中の母親を対象に「働きたい」という女性の後押しができるようなセミナーを実施。第1回・2回は、「子育てをしながら就職できるのか」といったことをハローワークの職員と共にワークショップなどをしながら考えた。Vol. 3 (3回目)は、実際に事業者に来てもらい、テレワークが可能なのかどうかを話し合ってもらった。

・マザーズセミナー (香芝市と共催)

ハローワークの職員を講師に招き、再就職を目指す女性たちに準備や心構えを学んでもらうことを目的としたセミナー。履歴書の書き方や面接の受け方、ハローワークの活用方法や子育てとの両立の方法を知ってもらう機会になった。

・「働く女性ロールモデル集」の作成

女性個人に焦点を当て、どんな働き方をしているのか、広陵町ではこんな働き方ができるということを示す冊子を作成。

14ページ、15ページ：広陵町役場内での男女共同参画の推進状況

それぞれの部署がやっている男女共同参画や女性活躍の観点からできているのかを調べ、達成状況調査シートを作成。概ね達成できているAとBがだいたい7割ほどを占めている。コロナ禍のために事業実施ができなかったものもある。

この達成状況を毎年評価しているものが15ページ。この推移を見ると、EやDが徐々に減ってきている。

この行動計画を策定することによって、広陵町全体でも男女共同参画、女性活躍の意識というのが向上していることが見て取れる。

## 質疑応答

○（質問）15ページの主要施策1、2、3とは何かが分からないが、次のページの1～3が平成30年から令和3年度にかけて広陵町役場内の各課で改善されてきているというグラフなのか？（施策だけが書いてあり、どんな項目で調査されて、改善されたのか分からない）

⇒はい。例えば、参考資料のところだと、9～13ページがこの主要施策2となっている。ここではいわゆる社会的弱者への取組、例えば「高齢者・障がい者の介護の負担を軽減するため体制を整備する」「障がい者が社会参加できるようなまちづくりに努める」などの項目がある。「女性に対する暴力根絶のための学習機会を提供する」（出前講座など）そういったことに取り組むようになり、達成度が上がっていると判断している。

調査シート10ページ「第2次広陵町健康増進計画に基づき健康づくりや実行意識を高める」といった点は、令和2年度の達成状況はBで令和3年度はAに改善されている。取り組みがグラフに反映されているという形になっている。

## 次第8の前に事務局より説明

16ページ：「令和4年度審議会で（委員に）何をしてもらおうか」

・広陵町男女共同参画の行動計画中間見直し

基本理念は「誰もが多様な選択肢から自らが自らの道を選択でき、活躍できる社会」。その具体的な施策とした3つの主要施策と理念については、「見直し」であるため、基本的には変えないでいきたい。中身について委員に審議してもらいたい。

17ページ：審議内容

今の社会情勢の変化を説明している。それと同時に、アンケート調査を実施したい。現状把握をした上で事務局で計画の素案を作り、皆様に示したい。その施策を次の5年間の後期計画にしていきたい。

18ページ：アンケート実施に関するスケジュール

- ① アンケート調査票を見た委員の意見をもらい修正⇒7月中旬に「内容確認」として、委員に書面で郵送。アンケートの素案の確認をしてもらう。
- ② 委員の意見を踏まえた最終修正を行う⇒8月中旬（お盆のころ）にアンケートを実施
- ③ 1か月ほどを目安に集計分析を行う
- ④ 分析結果を計画素案に反映し、第2回男女共同参画審議会を10月に実施
- ⑤ 10月実施分の意見を反映し、第3回男女共同参画審議会を行う（11月）
- ⑥ 意見を取りまとめ、翌年（2023年）1月にパブリックコメント実施（約3週間）

- ⑦ 集まった町民の意見を反映し、2月に第4回目（最終）の男女共同参画審議会を開催
  - ※「書面開催」としているが、「対面での開催」になる可能性あり
- ⑧ 広陵町の3月議会で計画上程
- ⑨ 議会で最終議決を得られれば、令和5年4月から後期計画スタート

## 8 アンケート調査票（案）の説明

資料5-1と5-2（今回のアンケート案）の説明

5-1は、平成29年8月に実施した前回のアンケート。表紙込みで16ページ・問45まであり、かなりアンケートとしてはしんどいのではないだろうかとの意見があるため、今回は設問を絞りたい。調査については以下の通り。

■調査対象…満18歳以上の2500名（無作為抽出）。前回と同じで男女同数。

前回の回収率は970人、38.8%だった。他の自治体のコンサルに確認したところ、この回収率は良い方だと聞いた。ただ、今回は1回督促を入れたいと思う。「まだアンケートに回答していない人は回答をしてください」というはがきを送ろうと思っており、（回収）目標は50%を目指したい。調査期間は8月中旬（お盆の時期）で、方法は郵送。

■調査項目の設定について

- ・前回の調査の結果と比較し、経年変化を見たい。
- ・全国や奈良県と比較できるような調査にしたい。
- ・現行計画の施策の取組状況を把握するための数値目標（網掛けの項目）も問いたい。
- ・回答することを通じて「男女共同参画」について（町民の）皆さんが考えるきっかけを作りたい。

⇒16ページだった調査を12ページに設定（対象者の負担感を軽減するため）

■具体的な設問の変更について（2～5ページ）

前回のアンケートから今回どう変えるのかという点を一覧で示した。「●」については「前回回踏襲型」ということで基本的には同じ問い方をしたい。「◎」は、項目はそのまま問い方を修正したい。

例としては、2ページ・問7の「子どもの人数」を問うのは当然だと思うが、それよりも子どもの年齢構成を聞くほうが大事ではないかと。「子ども」と言うと小学生や就学前の子どもがいる家庭を想像しがちになる。だが、例えば60代の家庭で子どもが30代でも、これも子ども。それを聞いても「男女共同参画とまた少し違う」という話にもなるため、そういった年齢構成も聞きたいと考えている。

問14から16（3ページ目）は、このような細かいところは回答がぶれる可能性があ



るので削除しようと考えている。

4 ページの間 2 2 中の「セクシャルハラスメント」「ドメスティックバイオレンス」のような言葉については、少し聞き方を変えようかと考えている。この言葉はかなり認知されているため、それよりもそういった「DVなどはどうですか（見聞きした・直接経験したことがありますか?）」という問い方にしようと思う。

DVの件は、7 ページに別案で記載している。「あなたは次のようなことが配偶者、パートナー、恋人の間で行われた場合、暴力だと思えますか」ということだが、基本的にここに書いてある①～⑫というのは、行った場合は全てDVに当たる。しかし、例えば⑪の「生活費を渡さない」、⑫の「電話・メールなどを細かく監視する」は、「これはDVではないのではないか」という意識の方もいると思う。そういった観点を男性にも女性にも、細かく確認したいと考えている。

8 ページの間 2 8（男女共同参画社会、固定的性別役割分担意識など）は用語の案だが、「こういう言葉は知っていますか?」「この男女共同参画とか女性活躍を考えるきっかけにするためにこの言葉を知っていますか?」という形で聞いていきたい。

9 ページの最後に「新設」として、「性的マイノリティに関するところ」は聞きたいと思い、事務局で考えた。「LGBTをはじめとする性的マイノリティについて生活しづらい社会だと思えますか?」、「その社会にどんな原因がありますか?」といった問いも聞きたいと考えている。

このアンケートについて意見のある方は、2 週間後の 7 月 6 日水曜日を期限として、Eメールや F A X などでご連絡いただきたい。

## 意見及び質疑応答

○（意見）現状把握をして成果目標の調整、計画への反映、見直しと、このアンケートは（回収率も含めて）かなり重要度があると思う。「どのように（社会が）変化しているのか」、「働く女性は多くなったが、30代～40代の方の労働率は全国に比べ低くなっているのが現状である」など、住民がどれだけ知っているのかというのが分からない。最初の調査目的を目にした時に、難しそう、めんどくさそうなどの気持ちがあると書いてもらえないかもしれない。これから取り組んで行かなければならない課題に対し、何か（住民の）皆さんに考えていただきやすいようなものを投げていければ。「このアンケートを自分が書くことで世の中・まちづくりが何か変わる、貢献できる」という意欲が沸くような投げかけができれば、このアンケートが生きてくるような気がする。

○（意見）郵送調査ではなく、Webなどもっと簡単に回答できるようにはできないの

か？

⇒事務局としては「無記名のため誰が答えたか分からず二重で答えてしまう可能性がないか」ということも懸念し、郵送の方が良いのではと思っていた。だが、現在はWeb調査も検討中で、督促ハガキのところにQRコードをつけて、「このQRコードを読み取るとWebで回答できる」といった形も考えている。

○（上記に関して別の委員からの意見）Webで回答したほうが回答率も高くなるだろうと思う。また、LINEで「広陵町」の「友達」になっている人も多く、「お知らせが来たらすぐに見る」ということも聞く。郵便料金も必要なため、インターネット上での回収にした方が良いのでは。

⇒事務局としても、「わざわざ2,500人に絞る必要があるのか」と思える。LINEの「友達」であれば1万3,000人ぐらい登録してくれており、それで回答してもらっても良いかも知れない。ただ、集計がどうなるのかが不明なため、検討させていただきたい。

○（質問）アンケートの問9-1で「配偶者またはパートナーの雇用形態」を問う箇所×（バツ）になっているのは、何か意図があるのか？

⇒前回の調査票では「仕事をしている」と回答した方には「どのような雇用形態ですか？」と聞いているが、少し検討させていただきたい。「これは調べたほうが良い」という意見だろうか？

（同じ委員）前回の結果で、広陵町の低さが分かったと思うが、それはおそらく夫が正規職員で勤めていることが大いに反映されているのではないかと思った。非正規であれば、（夫も妻も）両方勤めているパターンも往々にしてあるのではないか。広陵町の低さはそこにあるのではないかという結果だったように思うため、（問9-1の設問を）足しても良いのではないかと感じる。

○（同じ委員から意見）ジェンダーギャップについて、「教育」という点では女性も大学に行くし、「男の子だから・女の子だから」ということで、昔ほど女性が教育を受けなくてもいいという考え方はなくなってきていると思う。ただ、働くときには、女性が継続されない（継続雇用されない）し、非正規になるという形になっている。そこは妊娠、出産ということが大きいと思う。今後、管理職になってもらいたい女性が継続して正規で勤めていくにはどうしたら良いかという点で、妊娠・出産の問題にどう向き合うのか。また育児をしている女性に対し、どんなことができれば働き続けていけるのかという点が問えれば、なるほどと思う。私は「女性が勉強してキャリアを積んでいるのに、なぜそれが全く使われなくなるのか？」と感じたりもする。

⇒子育て世代で、離職した（女性の）その後、（育児と両立して仕事が）継続できるのか、また再就職という形でいけるのか（職に就けるのか）というのは課題で、いろいろな取り組みが必要だと思っている。実際に女性の「働こう」という一歩の踏み出しが大事だと思う点と、（女性が）働ける環境づくりとして企業側がそういった方（育児をしている女性）をどのように雇用していけば良いかとか、雇用についてもアンケートと連携をしながら（進めたい）。地域振興部にある産業総合支援課という課とも連携して、働いてもらう会社側の意識などの調査をかけることも「男女共同参画」につながってくるのではないかと考えており、いろいろな視点からアプローチを考えていきたい。

○（意見）18歳～70歳までのどの方がアンケートを送られるかわからないということだが、（回答方法は）紙ベースのほうもいいのではないかと思う。

⇒「Webも紙も含め全て検討」という形にさせてもらい、どのようにするかを7月にまた示したい。

○（質問）「アンケート対象者は合計2,500名で男女の数は半々にする」とのことだが、世代や年齢に関しても均等にするのか？

⇒基本的には人口構成に基づいて行いたいですが、若い方がなかなか回答しないというのもあり、その辺は加重をするかもしれない。20代～30代などには多めに郵送する可能性も考えている。

（他の委員から意見）若い世代にネット上で回答される方が多いとすれば、携帯にも対応する形（の方が良い）ですね。

（他の委員から意見）回答した方には何かポイントをあげるとか。

⇒事務局としては、「紙・Webのどちらかにする」というより「どのような形で回収率を上げていくのか、紙もWebも活用しながらどういう方法が一番良いのか」という点を検討させてもらいたい。

○（質問）

「広陵町はM字型カーブが奈良県よりもさらに底が低くなっている」ということだが、その理解は正しいのか。「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という項目で、国や県と比較すると、広陵町は「どちらでもない」という回答が非常に多くなっている。「どちらでもない」という項目が入っているのが、国とか他の県との違いだと思うが。

⇒この点は内部で検討した結果、日本人の特質上よく回答されることが多い「どちらでもない」という選択肢を取って、県と国とで直接比較できるような形にしたいと思っている。

広陵町の「女性の労働力率」は、把握している限りは確かに全国よりも低いですが、奈良県全体よりは高かったはずである。

○（意見・質問）最後に性的マイノリティについての質問を入れるのは非常に良い。今、若い人たちは結構こういうことに敏感になってきている。これは最初に男・女を問う質問があったのか？

⇒はい。男・女を問うところは「男性・女性・その他」という形で選択肢を設けている。

(同じ委員から意見) この点も「選ばない」などいろいろな表現があるようだが。

⇒「答えたくない」などの意見もある。

(同じ委員) 例えばマイノリティという点では、性的なマイノリティ以外にも障がいを持つ方や外国人で住んでいる方などがいる。だが、そこまで広げた考えではないということか。

「誰もが多様な選択肢から選択できる」という目標があり、この「誰もが」の中にどのような人をどのように含めるのか?と思ったのだが。ここは男女共同参画(がテーマ)で、ほかの部署でそれ以外のマイノリティの方(に対して)も考えていくと思う。

また意見があれば、この後で郵送やメールで事務局にお知らせしてほしい。

## 9 その他

・委員への報酬について

1回当たり半日、4000円を支払う予定。源泉徴収をした上で振り込む。

・アンケート案について

書面で送る。

次回の対面での審議会は10月頃を予定しているが、日程は会長、副会長に相談して決定したい。事務局では土曜日の午前中に会議を開催したいと思っている。また日程が決まれば通知をしたい。また、円滑な会議運営のため、前もって資料も送付できるように考えていきたい。

## 質疑応答

○ (質問) 全体結果などは、住民に広報か何かでフィードバックするのか?

全体結果については、広報ではいくつか(の紹介)だけになると思われる。本当の集計結果は、HPでの公表になると考えられる。

## 10 閉会

閉会 正午

以上